

いしかりしがとうじょうするぶんがくさくひん
石狩市が登場する文学作品

厚田公園に建つ子母澤寛の文学碑には、「函館戦争の敗残者江戸の侍が 蝦夷石狩の厚田の村に ひっそりと暮らしていた」と、「厚田日記」の一節が刻まれています。

歴史のまち石狩市は、また多くの文学作品の舞台として登場しています。その中から石狩市民図書館に所蔵する主な作品を紹介します。

(木戸口道彰)

- (1) 木原直彦(2002)北海道文学ドライブ道央編。イベント工学研究所。
(2) 石狩町誌編纂委員会(1997)石狩町誌/下。石狩町。



↑子母澤寛文学碑(厚田公園)

著者(50音順) □	作品名 □	出版社 □	出版年
安西 均 □	冬の麦 □	日本基督教団出版局 □	1977
飯塚 朗 □	北の旋律(第一部) □	現文社 □	1967
伊藤 整 □	石狩 □	沖積社 □	1981
小林 勇 □	雨の日 □	文芸春秋新社 □	1961
〃 □	夕焼 □	文芸春秋社 □	1974
子母澤 寛 □	蝦夷物語 □	中央公論社 □	1960
〃 □	厚田日記 □	文芸春秋社 □	1989
〃 □	南へ向いた丘 □	文芸春秋社 □	1989
高橋揆一郎 □	北の絃 □	新潮社 □	1986
寺久保友哉 □	停留所前の家 □	講談社 □	1978
土居 良一 □	沈黙の群れ □	立風書房 □	1993
中村眞一郎 □	氷花の詩 □	冬樹社 □	1971
西野 辰吉 □	石狩川紀行 □	日本放送出版協会 □	1975
丹羽 文雄 □	暁闇 □	大観堂書店 □	1942
深沢 七郎 □	流浪の手記 □	徳間書店 □	1967
船山 馨 □	石狩平野 □	河出書房新社 □	1989
本庄 陸男 □	石狩川 □	新日本出版社 □	1992
〃 □	石狩は懐かしく □	大観堂 □	1939
本間 堅治 □	石狩挽歌 □	響文社 □	1990
松山 善三 □	厚田村 □	潮出版社 □	1994
三浦 綾子 □	残像 □	集英社 □	1980
森 有正 □	木々は光を浴びて □	筑摩書房 □	1972
森山軍治郎 □	民衆精神史の群像 □	北海道大学図書刊行会 □	1974
八木 義徳 □	河口～家族のいる風景 □	福武書店 □	1985
吉野 勝 □	石狩川 □	日本文学館 □	2003
吉村 昭 □	流域紀行・石狩川 □	朝日新聞社 □	1973
〃 □	赤い人 □	筑摩書房 □	1977